

2014年12月11日

国立大学法人北海道大学

総長 山口 佳三 様

北大生・宮澤弘幸「スパイ・冤罪事件」の真相を広める会

代表 山野井孝存

代表 山本 玉樹



## 「心の会の碑」(仮称) に関する交渉申入れ

「心の会の碑」(仮称) 建立について、11月10日付で「再回答要請書」を送付し、回答要請期日の12月6日を前にして事務レベルで電話にて問い合わせたところ、10月30日付「回答」通りとの連絡を頂きました。

しかしながらこの回答は、11月10日付要請書で述べた通り、「碑を建てる土地の提供がだめなのか」、「話し合いの機会をもつことがだめなのか」、「両方がだめなのか」に対して、何ら示されておられません。

そこで、直接お会いして、「応じられない理由」の説明を伺いたく、ご多忙とは存じますが、日時を設定していただきたく申し入れます。

以下、その理由を申し述べます。

北大と本会とは、これまで意見の違いはありますが、一致点もあります。繰り返します。昨年6月25日の交渉において、北大は「事件を風化させない」「二度と戦争を起こさせない」ことを表明し、「遺族への謝罪と責任明確化」はなされなかったものの、本会との間で大きな一致点が生まれました。

今年5月の交渉では、秋間美江子さん同席のもとで北大は、「宮澤弘幸厳罰は冤罪であった」こと、その上に立って「宮澤賞」を創設し、宮澤弘幸顕彰と後世に正確な記録を残すことを表明しました。秋間さんと本会は、当時の北大の対応のさらなる検証を要請しつつ、この北大の回答を「誠意」として認め、了承致しました。

その際「心の会の碑」（仮称）建立の敷地提供について要請致しました。この要請について三上副学長が「現時点では考えていない」と、協力を明言されなかったことは事実です。しかしながら本会は、宮澤弘幸顕彰とともに、正確な記録伝承を推進すると表明した北大の姿勢の延長線上には、「心の会の碑」（仮称）建立に賛同が得られると考えてきました。お二人の元総長らの呼びかけに応じて、350余人から寄せられた賛同意見は、それを証明していると考えています。

宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の真相究明とともに、「心の会」での国境や身分を超えた交流を通し育まれた自由な精神や学問への情熱、その底流に読み取れる非戦・平和の思いなどは、それと逆行する動きが高まっているいまこそ、北海道大学が現在から未来に向かって推進すべき教育の「真理」であると考えます。

北大の教育理念は、「真理に倚ってたつ自主独立の自修心」「BE GENTLEMAN」の理想追究であると承知しています。

そうであるならば、「心の会の碑」（仮称）建立に関して、全面的なご協力をいただきたく、再々度にわたって要請するものです。

以上